

12

Dec. 2021

Vol.82

手洗い

# もとやま 社協だより

- 03 発熱時の対応
- 04 嶺北中央病院
- 06 本山保育所
- 08 本山町通所リハビリステーション
- 10 総合福祉ゾーン 天空の里
- 12 デイサービス長老大学
- 14 本山町訪問介護事業所
- 16 しゃくなげ荘
- 18 辻益デンタルクリニック
- 20 もとやまっ子 / 中止のお知らせ

特集 essential worker

エッセンシャルワーカーが紡ぐ  
地域の日常



エッセンシャルワーカーが紡ぐ地域の日常  
～今日もつながりつづけています～

エッセンシャルワーカーとは、人々が日常生活を送るために欠かせない仕事を担っている人のことです。新型コロナウイルス感染症の影響によって、世界中で外出自粛やロックダウンなどが相次ぎました。エッセンシャルワーカーは、そうした緊急事態下においても簡単にストップするわけにはいかない仕事に従事する人々に対し、感謝や尊敬の念を込めた呼称として使われています。

風邪症状がある場合はまず、  
下記までご連絡を！！

嶺北中央病院

TEL：76－2450

感染力が強い**変異株**にご注意ください！！

2021年版

**ゼロ密**を目指そう！  
～一つの密でも避けましょう～



**密接**  
しない



**密集**  
しない



**密閉**  
しない

人と会うときは



- 人と**十分な距離**を保つ！
- **混雑している場所や時間**を避ける！
- **オンライン**の利用や**時差出勤**を！
- **屋外でも密接、密集**を避ける！

飲食するときは



- **少人数・短時間**で、**大声は避けて！**
- **ガイドラインを守った**お店で！  
(アクリル板の設置、消毒、換気の徹底など)
- **テイクアウト**や**デリバリー**も！

**ポイント**

**会話時はマスクを着用**



※体調不良時の出勤・登校などはお控えください。



首相官邸  
Prime Minister's Office of Japan



厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare



新型コロナウイルス  
感染症対策推進室

新型コロナウイルス感染症対策  
(新型コロナウイルス感染症対策推進室 HP)





## 目に見えない感染症と 戦う現場

### 感染対策と実状

**川井さん** 「外来を受診の患者様には、正面玄関で検温、手指消毒、マスクの着用をお願いし、待合では、密を避けるために席を一つ飛ばして座って頂いています。また、病棟の方ではご家族の面会制限（基本、オンライン面会）をせざるを得ない状況となり、患者様、ご家族様には不自由をおかけしてしました。現在は感染状況から緩和でき、時間と回数等に制限はありますが、直接面会して頂けるようになっていきます。このように不自由だったり大変なこともあります。感染対策は患者様が安心して受診、治療して頂けるよう大切なことになっています。そのために職員も頑張っていますし、患者様にも協力して頂いています」

### 個別に気を付けていること

**窪内さん** 「目に見えないものなので、研修や職員間での周知を徹底して感染対策に取り組んで

います。忙しかったり、バタバタする事もありますが、基本的な感染対策をきちんとして。みんなそのつもりで業務に臨んでいます」

**泉さん** 「体調が少しでも悪ければ申告し、PCR検査を受け、休みをとるという事を徹底しています。何名かPCR検査を受けていますが、幸い陰性です」  
**川井さん** 「常に”感染を広めない”という事を念頭に置いていますね」



(右側から) 看護部長：川井 利香さん  
外来主任：泉 千賀さん、副看護部長：窪内 紀子さん

ストレスになっていること、

大変なこと、葛藤

**川井さん**「忘年会や運動会などが中止になっているので、職員同士のコミュニケーションをとる場所が少なくなっていることです。日々の業務を淡々とこなして帰る事がほとんどになったので…。それと、どうしても感染対策に時間がとられてしまうので、新人教育や看護師としての勉強、看護記録など取り組みたい事が後回しになってしまいうところが葛藤ですね」

**窪内さん**「万全の態勢で感染対策に取り組んでいます。 ”ひよつと感染しちよつたらどうしよう” という不安が拭い切れません。仕事柄、感染のリスクが高いので家族にうつしてしまう事も心配です。感染対策に関して自信もありますが、頭の片隅には不安がありますね」

**泉さん**「高知県で蔓延防止の対策がとられた時、こちらも例外

になく忙しくなりました。職員総出で休みの調整等もしつつ何とか乗り切り、今に至っています。急な呼び出しもあり、本当に大変でしたね」

**川井さん**「今まで経験した中で一番大変でした。受診される方が増えるやっぱりスタッフも必要になります。発熱外来と同時進行で普通の外来診療があるので、スタッフも増えない中もう…バタバタだったと思います」

### 頑張る原動力

**窪内さん**「もう毎日必死ですね。感染を起こさせないという想いで。本当に使命感とか責任感とかそういうもので。この病院が集団感染を起こして閉鎖になると皆さんに迷惑が掛かるので、そこがないように願いながら、必死に日々の業務をこなしています。毎日、今日も無事に終わるとホッとしています」

### 地域の方に伝えたいこと

**泉さん**「三密の回避は引き続き守って頂きながら、発熱等の症状がある方は来院前に電話連絡をお願いします。また、受診の際には自家用車で来て頂くことを推奨します。 ”発熱外来” という名前から、熱があつて重い症状のイメージが思い浮かぶ方もおられると思うのですが、少しの鼻水や下痢など熱がなくても感染している場合があります。

ので、症状が少しでもあれば発熱外来に案内させて頂いております。その際には離れた場所への移動等でご不便をおかけすることになるので申し訳ないのですが、ご理解をお願いしたいところです。色々完備できており、感染対策にもしっかり取り組んでいますので、体調不良の際には是非嶺北中央病院への受診をご検討ください」



検温の機械



正面入り口の状況

所長 大西 利恵さん

現在は、コロナウィルスの感染状況が落ち着き、県下の警戒レベルも下がり、少しずつゆるやかな取り組みになっている部分もあります。

## 地域の方に伝えたいこと

子ども達の健康管理には日頃から留意していますが、特にコロナの感染拡大が心配され始めてからは、毎朝登所時に体温の記入をしてもらっています。



(3、4、5歳児は部屋の前に記入用紙を用意。0、1、2歳児は連絡ノートに記入) 県下のレベルが上がった時には、子ども達もごはんを食べる時には一列に並んで同じ方向を向いて、できるだけしゃべらないように食べるなど、小さいなりに頑張って生活をしていました。

## 地域との繋がりを

地域との交流はほとんどできていませんので、その点では寂しいです。昨年から今年にかけて、保護者会活動もできていませんので、子ども達や地域の方にも喜んでもらえるように!と保護者会主催の「花火大会」を柿本産業のご協力を頂いて9月に行いました。サプライズでしたが、地域の方も少しは楽しんで頂けたのでは?と思います。町内に1つの保育所ですから、コロナ禍ではありますが少しでもつな

がりは持っていたいと思っています。

## 感染対策と実状

現在保育所では毎日、赤外線によるおもちゃの消毒、子どものイスやドアなどの消毒作業を続けています。ノロウィルスの感染防止のためにも、乳児(1歳児)のおしぼりは90秒熱湯消毒をしています。その他に職員毎日の検温、手指消毒も行っています。保育中は常に手指消毒をするので、手がポロポロになる職員もいます。

## 日常の変化

給食の職員も日頃は、子ども達が見える所で食べていますが、感染レベルが上がった時には感染リスクを減らすために別室で食べるようにしていました。おかわりも、子ども達が自由に給食室の前に来て自分の好きなものを選んでお皿に入れて



部屋に持って帰るスタイルから、担任が子ども達にほしいおかわりを聞いて取ってくる方法に変更していました。やはりその間は、子どもの様子が見えずに喫食状況の把握するのは難しかったようです。日頃、子どもが「おかわり ちょうだい!」と嬉しそうに好きなものをおかわりしていく様子を見られるのは、子どもの様子を把握するだけでなく、給食を作る張り合いにもなっている!と話していました。

お家の方も感染対策にはとて

も気をつけてくださっていて、子ども達は手洗いの習慣がしっかり身につけてきています。

この間、職員はずっと自分達ももしコロナに感染していても達に感染させてしまったら・・・という不安を抱えながら仕事をしています。体調を崩したらすぐに休んで検査を受ける。人混みには行かないようにするなど、常に緊張と隣り合わせの職員の負担も本当に大きかったです。(現在も続いています)



### コロナ後の施設の方向性

コロナでしんどい思いもしましたが、学んだこともたくさんありました。行事のやり方もその一つです。運動会は、乳児組と幼児組に分けて実施したり、競技数を検討して減らしたり、観客数も1/3くらいに制限したりと、感染対策をして実施しました。そうすることで、子ども達にとって無理のない内容になったし、保護者の方もゆったり参観できて良かったという感想を頂きました。行事はコロナで中止！ということが多かったです

が、「できない」ではなく「やれる方法でやってみる」という考えで取り組んだことで、新しいやり方に気づかされたりしました。その学びをこれからも活かしていきたいです。地域との交流も少しずつやっていきたいと思います。しかし、子どもの命や安全が第一なので、感染状況を常に見ながら対応したいと思います。

### 主任保育士 久保 千佳さん

ストレスになっていいること、大変なこと、葛藤

子ども達と一緒に元気に動く仕事なので、マスクが息苦しくてしんどいです。マスクは表情が読み取りにくいので子ども達に影響があるのでは？と心配しています。食事の時にはフェイスマスクを使うようにしていましたが、子ども達が気になってさわって食べなくなるということがあったので、なかなか難

しいと感じました。そこで、感染リスクを避けることを最優先に考え、先に子ども達に食べさせて、職員は後で食べるようにしました。「あくん」や「もぐもぐ」など実際に保育士が口を動かして食べることを伝えたい乳児には、このマスクの生活が本当にもどかしいし、ストレスに感じています。

### 地域の方に伝えたいこと

お散歩の時も、地域の方が子ども達の様子をすごく気をつけてくれて声もかけてくださり心配もしてくださっています。手洗いや消毒もとても丁寧にしている、子ども達は元気にやっているので大丈夫ですよ。と伝えたいです。

### 頑張る原動力

やっぱり子どもの笑顔です。この笑顔を守りたい、子どもの元気、健康を守りたいというのが原動力です。

【本山町通所リハビリステーション】

住み慣れた地域で

安心して暮らせる

ように



右側から（主任・理学療法士：筒井さん 介護職員：門田さん  
看護師：山下さん）

### 感染対策と実状

**筒井さん** 「手指消毒やマスクの着用、こまめな手洗いを実施しています。また、テーブルにはアクリル板を設置し、空気の流れを遮断しています。利用者さんには「テレビが見にくい、声が聞こえにくい」と最初のうちは不評でした」

### 地域の人に伝えたいこと

**門田さん** 「こちらは保健福祉センターの2階にて、送迎と食事付きで入浴サービスやリハビリ

の訓練等を行っています。利用者さんの平均年齢は87歳で本山町の方だけでなく、大豊町と土佐町の方も利用されています。また、「ここのお風呂は大きくて気持ちがいい」という声が多くあり、入浴サービスについても大変好評です」

**筒井さん** 「大きめの機械浴があるので、自宅で浴槽につかれない方でも楽に浴槽へ浸かることができます。また、「重度な状態の人が行くところ」というイメージを持っておられる方が多いのですが、実は様々な状態の人に利用して頂ける場所です。介護認定は必要になりますが、住み慣れた自宅にて元気で暮らせるようサポートしていくこと

が私たちの役割なので、お元気な方にも是非利用して欲しいです（※1）」

**山下さん** 「コロナ禍の状況を受け、今まで以上に利用者さんの体調の変化やバイタルの異変に気を付けていますので、安心して利用して頂ければと思います」

### 個別に気を付けていること

**門田さん** 「不要不急の外出は控え、大勢が集まる所へは行かないようにしています。家族も含め、自宅でも手指消毒をしています」

**山下さん** 「家族以外と飲食はせず、感染対策に取り組みようにはしています。家族内でも

※1・・・通所リハビリステーションは、要介護認定を受けている「要支援1～2、要介護1～5」までのすべての方が利用できます。要介護認定は基本的に65歳以上を対象としています。64歳以下で特定疾病を抱えている方の場合も「2号被保険者」として要介護認定の申請ができます。



ワクチン接種を極力行い、接触確認アプリもインストールしています」

**筒井さん** 「コロナ禍に限ったことではないですが、利用者さんとなるべく良い状態で接したいので、自分がまずは元気でいる為に身体を動かしたりしています。また、季節など自然に関する話をすると良く話をしてくれるので、日々季節の変化を気に留めるようにしています」

**大変なこと、葛藤、ストレスになっていること**

**門田さん** 「入浴介助を行う中で、暑い時期のマスク着用は暑さとお湯の熱気で本当に大変でした」

**筒井さん** 「難聴の方も多いので、マスクをする事でより聞き取り辛い上に、口の動きを読む事も出来ないなので不便を感じておられると思います。」



職員側も聞き直すことが増えてしまっています」

**山下さん** 「症状がなくても、もし陽性だったら…と考えると怖いです。自分達が感染源になることが不安で、そういう怖さ自体がストレスですね」  
**筒井さん** 「職員も利用者さんもお我慢の連続で、いつまで続くのか分からないことがストレスですね。あとは、もっと時間をかけて利用者さんに関わりたいです。限られた時間

の中で、利用者さんの自分でできる事をどこまで支援できるのかという葛藤があります」

### 頑張る原動力

**門田さん** 「”ここへ来たなら楽しいよ”とか”ここのお風呂が最高や”など言ってくれる利用者さんが沢山いるのですが、そういう言葉を聞くと私たちも嬉しくなりますね。”ここへ来て良かった”と思ってもらえるような場所にしていきたいです」

**山下さん** 「通所へ来ることによって、動きにくかった所が動くようになったり、痛みが取れた姿を見ることが、”通い始めて調子が良くなった”と聞くことが何より原動力ですね」

**筒井さん** 「僕も利用者さんや家族からの言葉でお役に立てたのかなって思えることが原動力です。目の前で反応が返って来るので本当に励みになります」

### コロナ後の方向性

**筒井さん** 「歌ったり、発声するレクを自粛しているのですが、もっと自由に出来るようになればいいですね。外部からイベントをしてくれる人も呼びたいです。刺激が少ないので、以前の様に戻していきたいです」

### 利用者さんに

### インタビュー

### 職員・地域の方へ一言！

「みんなに優しくして大事にしてもらっています。お風呂でも綺麗にしてくれるので楽しみに来ています」

「コロナが収まってくれる事を願うばかりです」

「ここはなんでもしてくれれます。車で送り迎えもしてくれるので、助かっています」

# 地域に根ざし

# 必要とされる場所に



## 感染対策と実状



百田 純也さん  
(施設長)

基本的な手洗い、うがい、不織布マスク着用を職員、来所される方に徹底するとともに、こまめな換気、手すりやドアノブの消毒を行っています。それに加え、全居室への空気清浄機の設置、エアコンの循環によりウイルスが舞うのを防ぐため、エアコンの吹き出し口を毎日アルコールで拭くなどの感染対策も行っていきます。また、各事業所に陰圧装置(※)を設置した部屋を用意し、もしコロナ感染者が出た場合にも対応ができるように対策をとつ

ています。面会制限を行うことで、ご利用者、ご家族様には、大変ご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、ご協力していただき、施設内での感染者は出ていない状況です。職員は、プライベートな外出も制限された中で一生懸命、日々、感染予防に努めてくれています。大変な状況で頑張ってくれている職員には感謝しかありません。現在の面会ですが、11月からはコロナ対策に加え、インフルエンザが流行する時期となりましたので、コロナワクチン接種が2回完了後10日以上経過した方のみ、日に3組までの面会が可能となっております。(前日までの予約が必要)

## コロナ後の施設の方向性

今後感染対策を継続しながら日々の業務になると思いますが、コロナ禍で現在行えていない行事や地域交流が早く再開できる状況に

なればと願っております。天空の里は開設して5年目となりますが、当初からの目標である、地域に根ざし、地域から必要とされ信頼される施設を目指し、事業運営を行っていきたいと思います。



※陰圧装置とは・・・部屋を陰圧にすることにより、空気感染、飛沫感染の可能性のある病原体等が室外に漏洩することを抑制します。

## ①ここを伝えたい!

### 地元雇用が一番の目標

地域密着を掲げ事業運営を行う中で嶺北地域の活性化にも積極的に取り組んでいきたいです。その中で人材不足は当初より抱える問題であり、地元雇用が一番の目標であります。地元の方に働いていただき、嶺北地域の活性化にも繋げていきたいと考えております。

## ②ここを伝えたい!

### 気軽にご相談下さい

高齢者施設というのは、一般の方は立ち入りにくいイメージがあるかと思いますが、ご家庭で介護等について困っていることがあれば気軽にご相談していただけたらと思います。また、地域交流ホールも開放していますので、地域の方に行事などで積極的に活用していただきたいです。今後もよろしくお願いします。

### がんばる原動力

ご利用者が、ニコっと笑ってくれたり、「ありがとう」の一言をいただいたり、今まで出来なかったことが今日出来たりなど、ちょっとしたことが励みになります。また、ご家族様からの励ましの言葉をいただくことで、もうひと頑張りできます。

良いことばかりではないですが、人と関われる介護の仕事は楽しく、自分が必要とされている、頼りにされていると感じられることはすごく嬉しいです。



水野 由恵さん  
(管理者)

# 原動力 「ありがとう」 その一言で

### 個別に気を付けていること

いかに職員がコロナを持ち込まないかに尽きると思います。職員みんなが、余程のことがない限り外には出ない、常に消毒液を携帯するなど、個々の感染対策の意識は強く、自分がコロナに感染しないように、コロナを持ち込まないように日常の行動にも常に気を付けています。

# デイサービス長老大学

## 高齢者の皆様の 知識と経験は地域の宝

### 感染対策と実状

玄関入ってすぐに手洗い場を増設し、石鹸手洗いをしていただいています。常時の窓開けと、天井ファンや高機能換気設備を設置し、換気の状態を二酸化炭素モニターでチェックしています。飛沫感染防止のための食堂パーティションを設置し、食事中はご利用者様にも「黙食」にご協力いただいています。職員のお昼休憩も別棟で一人ずつふすまで区切って食べています。

### コロナ後の施設の方向性

コロナが落ち着けば、以前のよう  
に地域の子ども達にご利用者様



代表  
澤本 洋介さん

ケアマネージャー  
澤本 志津さん

のお友達やボランティアさんが気軽に遊びに訪ねてきていただけるようなデイにしたいと思っています。ただ、それまで何もせず待つのではなく、オンラインや窓越しでの交流など、今できることに積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

昼食前のオンライン口腔体操は、平日毎日実施しておりますので、お気軽にご参加ください！関東からの参加者の方もいらっしゃいます。遠方のご親戚やお友達との交流の場としても使っていただけると嬉しいです。

### 地域の方に伝えたいこと

地域の皆さまお一人お一人の感染対策に心より感謝申し上げます。首都圏や関西圏からのリモー





トスタッフから状況を聞くと、地域で感染爆発してしまうと事業所の努力で感染を防ぎ切ることは極めて難しいようです。スムーズなワクチン接種についても大変感謝しています。長老大学の特徴である聞き書きも継続しています。高齢者の皆様の知識と経験は地域の宝です。お話を聞いて書いて残していく活動を続けたいと思っています。

### 管理者 福島 崇年さん

#### 地域の方に伝えたいこと

家庭菜園、体操、塗り絵等ご利用者様のペースに合わせて楽しく過ごしていただけるよう配慮しています。お昼ご飯のレパートリーが豊富でとてもおいしいです。お一人ずつ入っていただくお風呂も大変好評です。

ストレスになっていること、

大変なこと、葛藤

コロナ前のように近所の子ども達や、ボランティアの皆さんが気

軽に遊びにこれる環境でなくなっ  
てしまったこと、大きな声で歌っ  
たり、食事しながらお話ししたり、  
大笑いしたりできなくなっ  
てしまっていることがつらいです。

#### 個別に気をつけていること

- 手洗い、口腔ケア、部屋の換気  
や三密回避に取り組んでいます。
- 少しでも体調不良の時はすぐに  
相談して休める環境を作ってい  
ます。

○家族以外の人とは会わないよう  
にしている



## ご利用者様の声

- ◇こればあやってくれたら上等です。
- ◇スタッフ一人一人が大変気の利く立派な人達ばかりなので、毎日ありがたい気持ちで利用させていただいております。
- ◇スタッフの方達の心遣いが良く、優しく、毎日楽しく過ごすことができます。
- ◇お昼の食事でも大変良く、感謝の気持ちをもってごちそうになっております。おいしいもので満腹になります。
- ◇いつもお世話になり心から嬉しく思っております。
- ◇本当に利用者としてはありがたく気持ち良い場所です。
- ◇一度長老大学へきてみませんか？たくさんの方に利用していただきたい気持ちです。

- ◇長老大学という場所は、本当に利用者のために色々と考えてやってくれているという気持ちがよく伝わってきます。たくさんの方に利用していただきたい気持ちです。
- ◇長老大学に来られたことが大変ありがたく、本当に良い場所だと思います。

### 頑張る原動力

ご利用者様に「ありがとう」と笑顔で言っていたただけのこと、ご利用者様の明るい声が頑張る原動力になります。



自宅で暮らす高齢、障がいのある方の生活援助、身体介護を主に行っています。支援に伺った際に、体調をくずされている利用者さんがいた場合は、病院受診の為の準備や受診時の車の乗降介助なども行うことがあります。介護は、食事介助、入浴介助、トイレ介助、服薬を促すこと、一緒に掃除や料理をすることなどが含まれます。

## ヘルパーとして

今とは違い、物が無かった時代を生きて来られた高齢者から学ぶことは多いです。

人生の経験や生活の知恵などを聴かせてもらい、そのたくましさに驚かされると共に人生の先輩として頭が下がります。歳を重ねるにつれ伴う喪失感やはがゆさ、心身の痛みに寄り添いながら、住み慣れた家で

心豊かに暮らし続けていけるよう支援していきます。

## コロナ前後での変化

目に見えないことなので、自分の行動に制限がかかります。どこで感染するのか分からないので、プライベートでの外出の頻度が減りました。訪問時の



感染対策として、家に入る前にはマスク着用、アルコール消毒の徹底をしています。その後、利用者さんの検温を行い、発熱や風邪症状がないことを確認後支援に入るようにしています。訪問時には、利用者さんにもマスク着用を促しています。感染症対策として口腔ケアを促すと、拒否気味だった利用者さんが進んでしてくるようになったことはコロナ後でも嬉しい変化です。

## コロナ禍で大変なこと

感染予防の為、人手が限られたことがありましたが、他の職員に支えてもらいながら乗り切りました。しかし、マンパワーが不足してやむなく支援日の変更なども行うことがありました。また、利用者さんの体調の変化や異常がないか注意し、常に緊張感を持って接しています。

## 葛藤

対人かつその方の家での仕事になるので、利用者さんとコミュニケーションを密にとることや要望を聞くように意識しています。しかし、支援の時間が限られており、色んなことをしてほしいと思っっているご家族やご本人の思いに添えないことがあり、葛藤します。

また、訪問の際には制度上、制限されることが多く、エアコンの掃除や窓ふきなど支援できないことがあります。また、訪問に行く職員が固定しないようにシフトを組むようにしていますが、馴染みのある職員以外が支援に行く利用者さんが混乱することがあります。

## 原動力

利用者さんが「あんた無理しなよ」「ここは来んでもかまなき、他へ行っちゃって」など気遣いの言葉をかけて下さる事です。

また、ご家族や関係機関からのお礼の言葉があるとやる気も上がります。ヘルパーが来ると喜んでくれる利用者さんの優しい笑顔に癒され、陽気に生活されている姿を見ると、自分もこのように歳をとりたいたいものと逆に元気を頂いています。

## やりがい

利用当初には、ヘルパーの支援に抵抗がある利用者さんも訪問を重ねるうちにヘルパーが来ること自体が刺激となり、今までしなかった調理を一緒にするなど変化がみえることが嬉しく思います。利用者さんが快適に過ごせる環境づくりを手助けして、喜んでもらえるやりがいを感じます。利用者さんの大半が、自分よりも年上の方々にヘルパーとして関わっていく中でも学ばせてくれることが多く、楽しく思います。



## 利用者さんから

### ヘルパーに一言

買い物は自分で行けるが、何を買ってきたらいいかいつもメモをしてもらっています。調理や洗濯、デイの準備を手伝ってくれているので、気の毒に思うが、助かっています。

料理もいつも美味しいです。

## 地域の人に伝えたい!

近所の方からの情報が助けになります!

地域の方々にヘルパーが訪問していることを知っていただくと、「いざ」という時に助けられることがあります。近所の方々や商店から変わった様子がないかなど情報を頂けるとありがたいです。気になることがあった時には、ヘルパーにお声がけください。また、利用者さんにとって昔から親交がある方からの言葉かけは認知症があるなし関わらず、本人に伝わりやすいものです。近所の方で、ごみ捨てやデイ利用時の声掛けなど手助けをしてくれている方々に日々感謝しております。

# しゃくなげ荘

## 制限のある中で 出来ることー

### 感染対策と実状



施設長  
真鍋 朋三さん

手すり、ドアノブなど手が触れる場所の消毒、次亜塩素酸での施設全体の掃除を1日に2回実施し、検温も1日に4回実施しています。毎週月曜日に、コロナ感染症対策委員会を開き、感染状況を確認しながらその週の対応を決め、職員の日常的な行動も感染状況にあわせて5段階で制限しています。感染者が多い時には、生活に必要な買い物、家と職場との行き来だけに制限し、利用者さんについても、外出、帰省、面会を制限しました。また、感染者が出た場合の対応として、職員の対応マニュアルを作成し、シミュレーション

も行っています。コロナ禍により、利用者の皆さんには、大変窮屈な生活を強いており、職員は許される範囲の中で、少しでも利用者さんが楽しめる、日常の生活に変化をもたらせるように取り組んでいます。例えば、しゃくなげの経営するカフェレストでモーニングをしたり、ホールで喫茶を開きお店感覚のイベントを企画するなど、月に1回は楽しめるイベントを企画しています。

### コロナ後の施設の方向性

収束はしても終息は今の時点では考えられず、長い闘いになるのではないかと思います。利用者の方々の皆さんには、一人一人にそれぞれの夢、希望、要望があります。自分たち職員は、その一人一人の権利を擁護し、どうすればその思いを叶えることが出来るかを利用者さんと一緒に考え実行し、利用者さんの生き生きとした笑顔が見られるよう努力していきたいと思っています。





支援員  
上原 宏さん

### 個別に気をつけていること

利用者さんの日々の体調管理に気をつけています。利用者さんの中には自分から発信できづらい方も多く、ちょっとした表情や行動で、体調の変化に早期に気づき、重症化を防ぐようにしています。また、市内から通勤している職員は嶺北で買い物をしたり、大型量販店に入りしれない、人がいない時間帯に買い物に行くなど気をつけています。

### ストレスになっていること、

### 大変なこと、葛藤

終息がみえないコロナ禍で、先の見えない生活がいつまで続くのだろう…という葛藤はありますが、施設内には基礎疾患のある利

用者さんも多く、コロナに感染すると重症化する恐れがあるため、職員は、しゃくなげに持ち込まない！嶺北に持ち込まない！という強い気持ちで対応しています。行動制限がある中で、小さい子どもがいる職員は、休日の外出も難しく、ストレスもたまり大変だったと思います。

### がんばる原動力

コロナ禍で利用者さんがストレスや葛藤を抱えながらも、笑顔で過ごしてくれている姿を見ると、自分たち職員ももっと頑張らなくてはという気持ちになります。あとは、利用者さんや家族がコロナに感染せず安全に生活できるようにと思う気持ちが原動力になっています。

### 地域の人に伝えたいこと

8月のパラリンピックでも言われていましたが、障がいをもつ個性をとらえ、個々の多様性を認め合うバリアのない共生社会に向

けて、職員も利用者さんも本山町の一員として今を一生懸命に生きていくことを知ってもらいたいです。コロナ禍において、地域に出ていく機会が少なくなり、地域の皆さんとの関わりが少なくなっていますが、気軽に声をかけて頂けるとありがたいです。



### スタッフに向けて一言

僕は、今、散歩に参加しています。缶回収や缶つぶしも頑張っています。また服とか靴下とか買いに行きたいです。ゲームソフトも欲しいです。しゃくなげの生活とかカラオケ、缶つぶしを頑張ります。これからもよろしくお願いします。

### 地域の人に伝えたいこと

最近は、コロナの関係で、しゃくなげにずっといました。おたのしみプラン（市内への買い物）や旅行も行けなくなって、みんな退屈しています。サマーインしゃくなげが出来るようになったら、皆さん、またしゃくなげに来てください。



利用者  
池添 健治さん



歯科医師  
上田 哲也さん

# 歯を大切にすることが 感染予防に繋がります。

## 感染対策と実状

コロナの影響により、通常であれば買わなくてもよいもの（フェイスシールドや洗剤、消毒用アルコールの追加など）を買うことが増え、従業員のことも考えながら業務にあたらなければならなくなりました。

元々、キャップ・マスク・ゴー

グル・手袋着用は当たり前の装備でしたが、コロナ禍となりフェイスシールドを使用することになりました。

また患者様が減ったことで、待合にあまり人を入れないようにしています。（多くて2組）

元々、車椅子も入れるように診

察室の空間を広くとっており、バリアフリーにしている事がコロナ禍となっても役に立っている現状です。

## 個別に気を付けていること

極力、顔や顔の周囲に触れない、他の場所にも触れない、触れたら必ず手洗いをするようにしています。

## ストレスになってきていること、大変なこと、葛藤

元々、器具や座席の滅菌・消毒はしていましたが、診療が終わる毎に機器や手すりなどの消毒作業にも時間が費やされるようになってきました。

歯科治療により、コロナに感染するのではないかとの恐怖心から患者様の数が激減してしまいました。こちらが説明しても中々理解を得られず、痛くない箇所をなぜつく（治療する）必要があるのかと言われたり、

治療期間の長さから途中で治療に来なくなる人もおり、せっかくここまで良くなったのに次に来た時には悪化して振り出しに戻っていることが悲しい気持ちになります。治療が完了しても、メンテナンスに来ないと次に来た時にはポポポになっていきます。

## 地域の人に伝えたいこと

全国的に歯医者でのクラスターは確認されておらず、インフルエンザでは口腔ケアが感染予防に有効であると実証されています。ぜひ口腔ケアを通じて、一緒に感染予防をしていきましょう。



歯科衛生士  
和田 貴子さん

歯科補助  
田岡 洋子さん

# 知ってほしい事！



## 歯を清潔に保つ

インフルエンザにしてもコロナにしても、口の中を清潔に保つことが感染予防に繋がることを知ってほしいと思います。実際にインフルエンザではそれが実証されています。

何もなくても、半年に1回はメンテナンスのために歯科受診をお勧めします。

## 定期的な受診の必要性

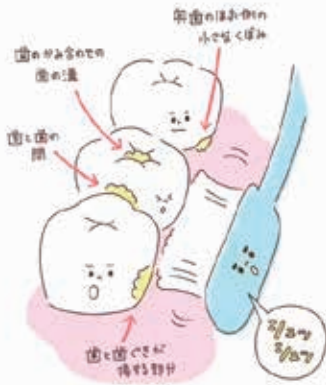
痛みの自覚が無くても、プロの目から見ると治療が必要なこともあります。そして悪くなつてから歯医者に行くと、治療に長期間また費用が掛かってしまいます。しかし定期的に受診すると検査・クリーニング・歯石除去（適宜）など1日で終了しますし、予防の方が断然安価で済みます。歯ブラシ・歯間ブラ

シ・フロスはそれぞれ役割が異なり、毎回続けることで口腔内の健康維持が出来ます。例えば、歯間ブラシのやり方、自分に合ったサイズなど何でも相談しに来てほしいと思います。

## 高校生までは医療費が無料

また、学校の健診時にほとんどの人に何かしら処置の必要があっても中々受診してくれないので、特に中高生に来てもらいたいです。医療費が無料の内に見えひ来てください。口腔内を見られることが恥ずかしい方もいらっしゃるかもしれませんが、こちらは仕事ですし全く気にしていませんので、恥ずかしがらずにおいでください。

もし、治療に時間がかかるとしてもご自身の都合で週（月）



に1回しか来れないなど伝えてもらえば、個別に対応していきますので、疑問や要望があまりましたら気軽に言ってください。

## やりがいや原動力について

長期間の治療を終えた患者様に「口の中が良くなったよ。」とか、笑顔で「ありがとう。」と言ってもらえることが一番嬉しいですし、モチベーションになります。メンテナンスに10年以上通院してくれている患者様が「キレイになったよ。」と言ってくれること、来てくれること自体も嬉しいです。

治療を通じて、口腔内がきれいになったなあと感じることがやりがいに繋がっています。

最初は口腔内がとても汚かったが、通院していくうちに綺麗な状態でメンテナンスに来てくれると、変わったんだなあと思います。





筒井 亮太<sup>りょうた</sup>くん 吉野小学校6年

ぼくの将来の夢は、バイクで世界一周一人旅です。理由は二つあります。

一つ目は、バイクがかっこいいからです。バイクってとても細くて、そしてスピードを出したりゆっくりと移動できる乗り物だし、風にあたると涼しくて気持ちがいいです。

二つ目は、色々な風景を見たいからです。たまに自転車でサイクリングに行ってます。夕日から見る山頂の景色はすごくきれいです。バイクで見る景色は今までとは違うものを見られると思うからです。

最初は、アメリカ大陸を横断して、ヨーロッパへ、そして中国、オーストラリア、ニュージーランド経由で世界一周をしてみたいです。おいしい食べ物にも出会いたいです。早く免許を取り、バイクを買って地理の勉強もして世界を知り、この夢を叶えていきたいと思います。

## 行事中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により、下記の行事の中止についてお知らせします。楽しみにされていた皆さまに残念なお知らせとなりますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

令和3年度

独り暮らし高齢者とボランティアの集い